

フォルボ・フロアリング
ご導入事例紹介 vol.4

加地様邸（兵庫県西宮市）

加地則之氏は清水建設株式会社・設計本部のグループ長として数多くの教育・文化施設の設計・監理を手掛けられています。

このほど完成した同氏のご自宅にはフォルボのリノリウム床材「マーモリウム」をご採用いただきました。マーモリウムを選択したポイントと、設計者の立場から 素材の選定に対するこだわりについてお話を伺いました。

穏やかなグレーの色と質感を求めて

自宅を新築するにあたり、インテリアについては、まずカラースキームを「少し古びた木」、「静謐な白」、「穏やかなグレー」をベースにすることを決めました。その中で天井を木、壁を白、床と家具をグレーにするのが良いと考え、要となるグレーの床材を探し始めました。

当初、家族から床はフローリングが良いという意見が出ていたので、グレー系のフローリングから検討を始め、タイルやシート系、その他考えられる素材について、事例を調べ、サンプルを取り寄せながら検討しました。その中で、自分が教育施設等で採用して実際に触れる機会があったこと、また身体に優しい天然由来の床材であるということから、素材をリノリウムに決め、中でも自分が思う理想のグレー色が見つかったことから、フォルボの「マーモリウム」を選びました。

アトピー症状がある娘にもリノリウムが持つ抗菌性が少なからず効果を発揮するのではないかという期待もあり、結局、全居室をマーモリウムとしました。

実際に素足で歩いたり、直接座った時の感触も思ったより良好で、当初フローリングを推していた家族も満足してくれているようです。

施工面でのこだわったポイントは？

まず、床と壁の取合いをシンプルに見せるために、「目透し巾木」といわれる納まりにしたことです。一般の巾木に比べて手間がかかり、工事の手順も床仕上げを壁のボード張りよりも先にしなければならぬので、大工さんや床職人さんにはご苦労をかけてしまったかもしれません（笑）。

リノリウムは施工後も強度・耐久性を増していくという特性がありますし、独特の質感と色・柄が選べるという点でも、マーモリウムにして良かったと思います。丁寧に施工してもらった床には非常に満足しています。



リビング (Photo : Katsuhisa Kida / FOTOTECA)



加地 則之氏

住宅用としてリノリウムを採用される際の注意点、 アドバイスなどがあればお聞かせください

床だけを考えるのではなく、天井、壁などとの、素材や配色のバランスを良く考える必要があると思います。天井に加えて床や壁も木にしまうと木の印象が強すぎる空間になってしまうかもしれませんし、逆にすべて白い空間の床を単色のリノリウムにしてしまうと無機質なイメージになってしまうかもしれません。家具も含めて、部屋を構成する要素を十分に吟味して検討されることをお勧めします。

天然材料より製造されているリノリウムは、製品化された後も酸化を続けながら、必要とされる強さと弾力性を得ています。その際「乾燥室フィルム」という黄味色の皮膜が表面に現れることがありますが、これは変色でなく、室内の光源や自然光にあてることによりその現象が消滅します。

これも改めて認知できたリノリウムの素晴らしさだと感じています。清掃は、使い捨てのダストシートなどで埃やごみを取り除き、時々水拭きするくらいで十分綺麗になります。

我が家では自動の水拭きロボットを使っていますが、水拭きした後は特に足触りが気持ち良いです。通常リノリウムはワックスがけが不要ですが、たまにワックスをかけてしまっているケースを見受けれます。ワックスを使うとリノリウム本来の素材の特長が台無しになってしまいますし、表面に出来たワックスの被膜が汚れを作ってしまうので注意が必要です。



バーカウンター (Photo : Katsuhisa Kida / FOTOTECA)

今後フォルボ製品に対するご要望等があれば お聞かせください

家具や、デスクトップ、カウンターの天板として使用できる「ファニチャーリノリウム」も興味深いので、今後機会があれば使用してみたいと思います。

壁用リノリウム「ブルテンボード」も今後、採用を増やしていきたいと思っています。製造ロットの違いによる色の濃淡が、もっと安定的になるような改善をできればお願いしたいと思います。